

SHOW-HHEYシネマルーム

Data

監督・脚本・製作・編集：ジェームズ・キャメロン

出演：レオナルド・ディカプリオ/
ケイト・ウィンスレット/
リー・ゼーン/キャシー・ベイツ/
フランシス・フィッシャー/
ビル・パクストン/
バーナード・ヒル/
ジョナサン・ハイド/
ビクター・ガーバー/
デイヴィッド・ワーナー/
ダニー・ヌッチ/
グロリア・ア・スチュアート

タイタニック 3D

2012年・アメリカ映画
配給/20世紀フォックス映画・195分

2012(平成24)年3月30日鑑賞

東映試写室

👁️👁️ みどころ

『アバター』(09年)に抜かれるまで、全世界興行収入トップの18億4500万ドル、日本でもトップの262億円を稼ぎ出した不朽の名作『タイタニック』(97年)が3D版で登場!あれから既に15年が経ったわけだ。

今や世界のトップ俳優に成長したレオナルド・ディカプリオとケイト・ウィンスレットの初々しくもみずみずしい演技を、再度しっかり目に焼きつけた。3D版では、船首に立って全身に潮風を受けるあの名シーンは?また、度肝を抜かれたあの沈没シーンは?

あの名作が再び3D版で!

ジェームズ・キャメロン監督があの名作『タイタニック』を3D化。考えてみれば、1997年の公開から早くも15年が経ったわけだ。今やジャック役のレオナルド・ディカプリオもローズ役のケイト・ウィンスレットも世界のトップ俳優に成長しているが、本作の撮影開始時はディカプリオは19歳、ケイト・ウィンスレットは18歳だったとのこと。そりゃ2人とも初々しく、かつみずみずしいはずだ。

再三のテレビ放映もあって、物語は既にお馴染みだが、あらためて3時間15分の間、劇場(試写室)で集中して鑑賞すると15年前の感動が再び!すばらしい作品は何度観てもすばらしいが、こんな映画はやはり自宅のリビングではなく、是非劇場で!

3Dの効果は?

『タイタニック』3D版を製作するについて、ジェームズ・キャメロン監督はいくつか

の技術的なポイントを解説しているが、それは私には全くわからない。ジェームズ・キャメロン監督の『アバター』(09年)(『シネマルーム24』10頁参照)は3Dの良さを最大限に発揮させたものだろうし、山崎貴監督の『ALWAYS 三日月の夕日'64』(12年)は映画冒頭に伸び出してくる東京タワーにビックリしたが、所詮3Dは映像技術の問題だから慣れてくるとそれなりのものになってくる。

ただ私が3D版で時々違和感を感じるのは、「遠近」感を出すために時々人間の身体がやけに小さく映ってしまうこと。後半からクライマックスにかけて展開されるタイタニック号の沈没シーンは3Dに最適の映像だが、人間同士の対話シーンなどに3Dはあまり向いていないのかも？もちろん3Dには3Dなりの良さがあるからそれを楽しめばいいのだが、私はそれ以上に『タイタニック』という映画そのもののすばらしさを、15年ぶりに再度堪能。

合計すれば興行収入を再度塗り替え？

キネマ旬報映画総合研究所主催の第1回映画検定が実施されたのは2006年6月。私はその4級を受けて合格し、続く2006年12月には3級にも合格した。そんな映画検定の公式テキストが『映画検定 公式テキストブック』(キネマ旬報映画総合研究所編)だが、その「雑学いろいろ」のコーナーでは「最高の興収をあげた映画は？」との質問がある。その答えは、『タイタニック』(97)。全世界の興収が10億ドルを超えた最初の映画で、総興収は18億4500万ドルだった。

ところが同じジェームズ・キャメロン監督の『アバター』によってその興行収入が塗り替えられ、『アバター』が全米、全世界興行収入歴代NO.1になった。ちなみに、日本興行成績でも『タイタニック』は歴代2位で262億円だから恐れ入る。今回の『タイタニック』3D版がどのくらいの観客を集めるのか注目されるが、再び全世界で『タイタニック』フィーバーが起これると2Dと3Dを合計すれば『アバター』を抜き、再び全世界興行成績首位の座に立つのも夢ではないかも？

2012(平成24)年3月31日記